

シコロエガイ *Porterius dalli* (E. A. Smith)

【選定理由】

本種は、内湾から湾口部にかけての潮間帯から潮下帯の転石に、足糸で附着して生息する。しかし、近年の生息記録はほとんどなく、わずかに山口県徳山市付近で生息が知られるのみである (和田・他, 1996)。県内でも三河湾湾口部の日間賀島南岸に比較的良好に保全された転石地があり、詳細な調査を行ったが、本種は生貝 1 個体が採集されたにすぎない (木村, 1995)。1998 年以降の調査の結果、県内では生貝はおろか、死殻さえ採集されていない。和田・他 (1996) では、危険とランクされている。絶滅の可能性が非常に高い種であると評価された。



南知多町日間賀島南岸水深 2m(ダイビング), 1994 年 7 月 2 日,
木村昭一採集

【形態】

殻長約 30 mm、殻は前後に長い楕円形で、両端は丸い。殻はやや厚く、膨らみは弱い。殻表は厚い殻皮で覆われ、殻皮は同心円状に毛羽立つ部分と栓皮状の部分交互にある。

【分布の概要】

【県内の分布】

現在は生息が確認できない。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。北海道南部から瀬戸内海まで分布するとされているが、房総半島以南では近年生息が確認されている場所は非常に少ない。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

内湾域の環境は破壊されているので、本種の生息場所、個体数とも減少したと考えられる。現在死殻も採集されず、危機的な生息状況である。本種は冷水性貝類で、近年の温暖化が影響している可能性もある。

【保全上の留意点】

内湾の潮間帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

木村昭一, 1995. 日間賀島南部海岸の潮間帯付近の軟体動物相. 研究彙報(第 34 報): 16-27. 全国高等学校水産教育研究会.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

(木村昭一)